DENON

AM-FM ステレオレシーバー

PMA-CX3

取扱説明書

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

接続のしかた

操作のしかた

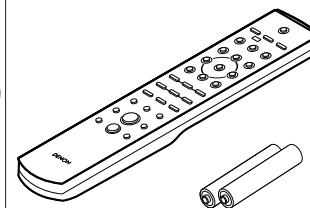
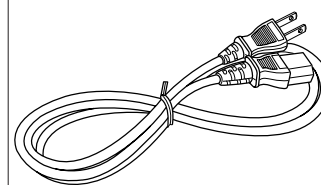
その他について

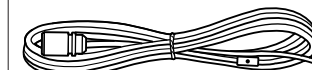
ご使用になる前に

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

電源コード …… 1本
【本機専用】

リモコン（RC-1060）…… 1個
単4形乾電池 …… 2本

FMアンテナ …… 1本
（ケーブルの長さ：約1.5m）

AMループアンテナ …… 1個

取扱説明書（本書）…… 1冊

製品のご相談と修理・
サービス窓口一覧表 …… 1枚

保証書【梱包箱に添付】

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告

❑ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

《ご使用になる前に》

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

警告 つづき

❑ 安全上お守りいただきたいこと

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

❑ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

注意

❑ 安全上お守りいただきたいこと

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードを本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

❑ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

❑ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

❑ 使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

❑ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

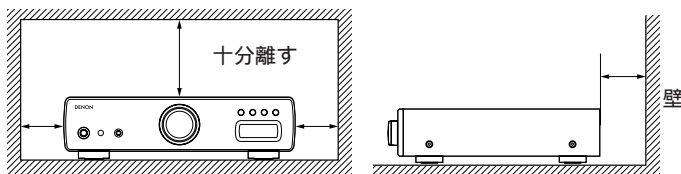
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の機器などとは十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れたところでご使用ください。

お手入れのしかた

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

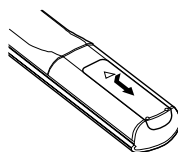
◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色したりすることがありますので、使用しないでください。

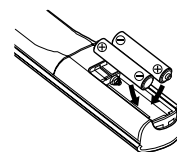
- 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

リモコンについて

付属のリモコン（RC-1060）で、本機以外にDENON製CDプレーヤーDCD-CX3を操作することができます（☞ 8ページ）。

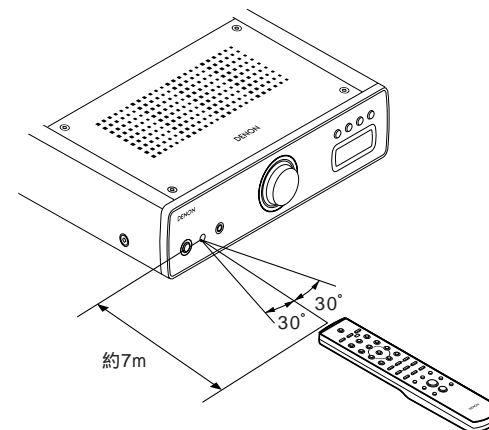
乾電池の入れかた

① 矢印の方向に裏ぶたをずらして外す。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜてご使用にならないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池を交換するときは、あらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

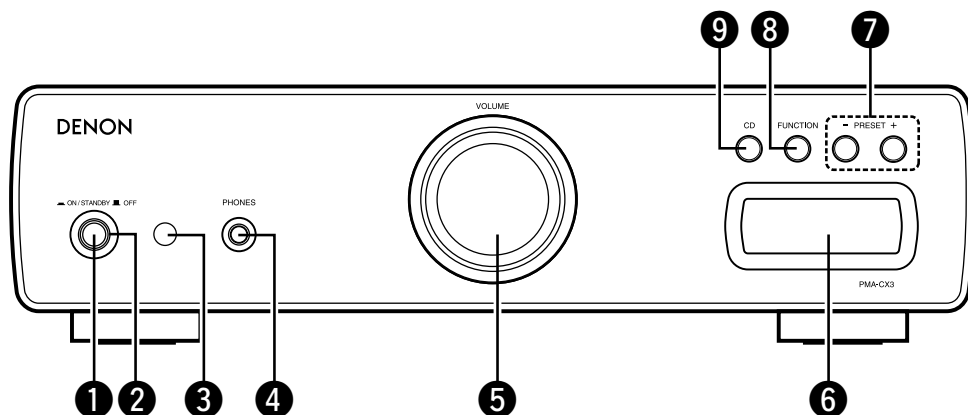
リモコンの使いかた

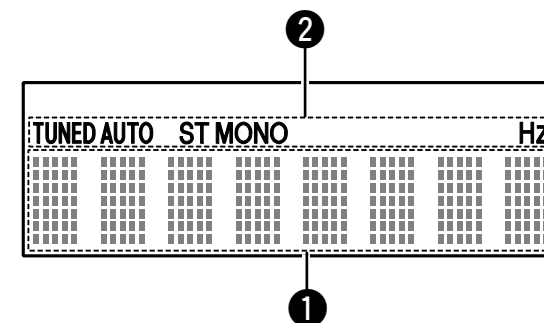
- リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 左右30 °までの範囲で約7m離れたところまでご使用になれます。

ご注意

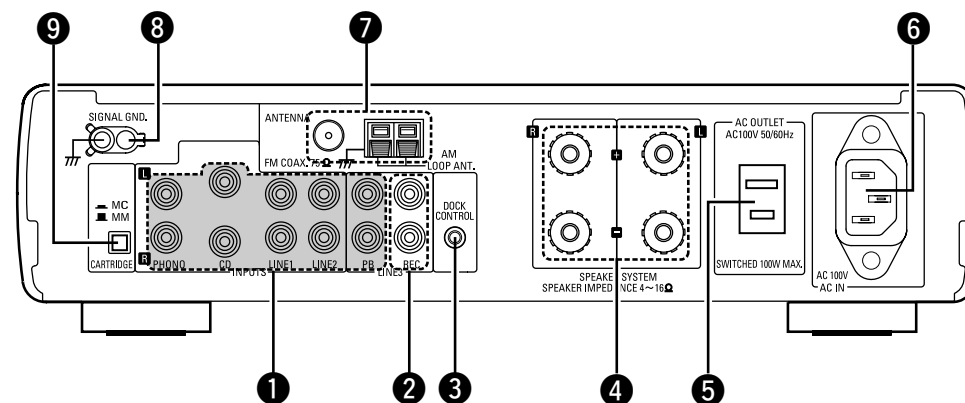
リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、（　）内のページを参照してください。

フロントパネル

❶ **電源スイッチ（▃ON/STANDBY ▇ OFF）**……（13）
❷ **電源表示** ……（13）
❸ **リモコン受光部** ……（6）
❹ **ヘッドホンジャック（PHONES）**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、音声はヘッドホンからのみ聞こえます。
❺ **音量調節つまみ（VOLUME）** ……（13）
❻ **ディスプレイ**
❼ **プリセットボタン（PRESET）**……（14）
❽ **ファンクション（入力）切り替えボタン（FUNCTION）** ……（13）
❾ **CD選択ボタン（CD）** ……（13）

ディスプレイ

❶ **インフォメーションディスプレイ** ……（13〜15）
❷ **チューナー受信モード表示** ……（14）

リアパネル

❶ **アナログ音声入力端子（INPUTS）** ……（11）
❷ **アナログ音声出力端子（LINE3 REC）** ……（11）
❸ **DOCK CONTROLジャック** ……（11）
❹ **スピーカー端子（SPEAKER SYSTEM）** ……（9）
❺ **ACアウトレット（AC OUTLET）** ……（12）
❻ **ACインレット（AC IN）**……（12）
❼ **アンテナ端子（ANTENNA）** ……（10）
❽ **アース端子（SIGNAL GND.）** ……（11）
❾ **カートリッジ切り替えスイッチ（CARTRIDGE）** ……（11）

《ご使用になる前に》

リモコン

- リモコンのボタンのはたらきは、設定中のファンクションよって変わります。

アンプ操作ボタン

電源ボタン
（POWER）……………（13）

トーンボタン
（TONE）………………（13）

入力切り替えボタン
（CD、TUNER、PHONO、LINE1/iPod、LINE2、LINE3）
※“ LINE1/iPod ” は、本機にiPod用コントロールドックを接続することによりiPod入力に切り替わります。

ミュートボタン（MUTE）
消音します

音量調節ボタン
（+, –）………………（13）

ピュアダイレクトボタン
（PURE DIRECT）………（13）

ディマーボタン（DIMMER）
ディスプレイの明るさを変えます。ボタンを押すたびに次のように切り替わります
→明 →暗 →消灯

チューナー操作ボタン

エディットボタン
（EDIT）…………………（15）

メニュー/セットボタン
（MENU/SET）…………（15）

選局ボタン
（TU ＋, –）……………（14）

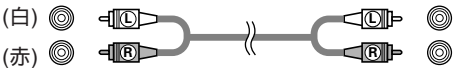
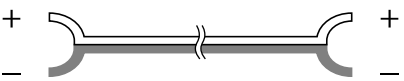
クリアーボタン
（CLEAR）………………（15）

チャンネル選択ボタン
（CH ＋, –）……………（15）

エンターボタン
（ENTER）………………（15）

バンドボタン
（BAND）…………………（14）

- **POWER**、**PURE DIRECT** および **DIMMER** ボタンはDENON製CDプレーヤーDCD-CX3にもはたらきますので、本機と一緒に操作することができます。それぞれ別の設定状態のときは、ボタンを2秒以上押してともに初期状態にしてから設定してください。
- 初期状態では、電源は“ オン ”、ディスプレイの明るさは“ 明 ”、ピュアダイレクトモードは“ オフ ”になります。

- 本機とiPodの接続には、iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をご使用ください。

接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因になります。

接続ケーブルの表示

下記に示す接続ケーブルを使用して接続してください。

オーディオケーブル	信号方向
A アナログ接続（ステレオ） (白) (赤) L R ピンプラグケーブル	オーディオ信号： IN OUT OUT IN
B スピーカー接続 + − + − スピーカーケーブル	

スピーカーの接続

本機のスピーカー端子とスピーカーは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。

ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーケーブルの接続

① スピーカー端子を左に回してゆるめる。

② ケーブルの芯線を差し込む。

③ 右に回して端子を締める。

バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入する。

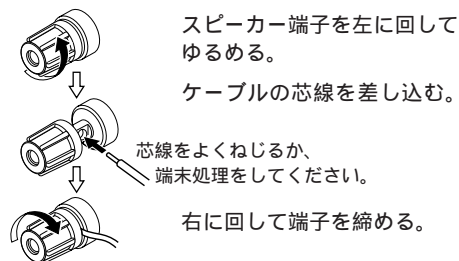
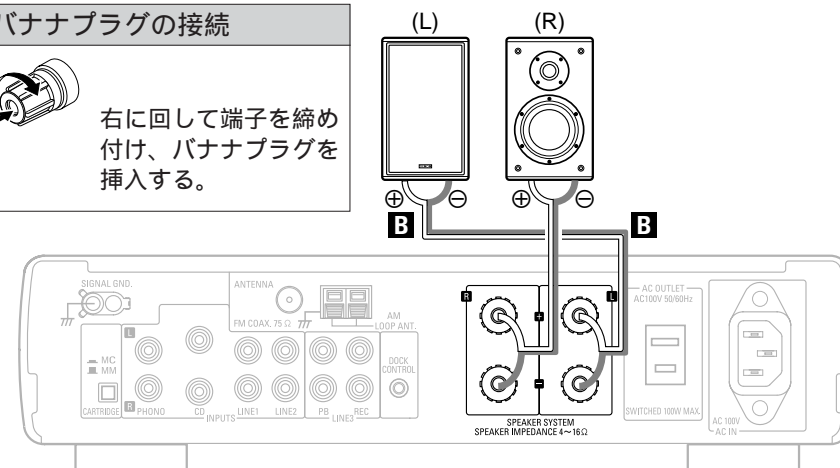
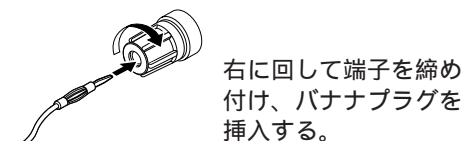
❏ スピーカーのインピーダンスについて

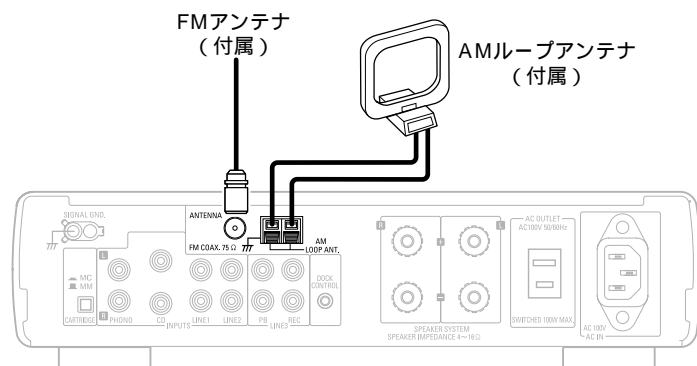
インピーダンスが4〜16Ωのスピーカーをご使用ください。

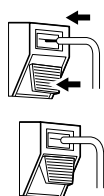
スピーカーインピーダンスのご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：3Ω）を使用して、長時間大音量で再生すると、温度が上昇して保護回路が動作します。

保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてから本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。また、スピーカーケーブルや入力ケーブルの配線を確認してください。その後、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。

本機の周囲の通風や配線に問題がないのにも関わらず保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

アンテナの接続

付属のアンテナを接続する

AMループアンテナの組み立てかた

① 曲げる。　② 穴に差し込む。

AMループアンテナの接続

① レバーを押しながら、アンテナケーブルを挿入する。

② レバーを離し、アンテナケーブルを固定する。

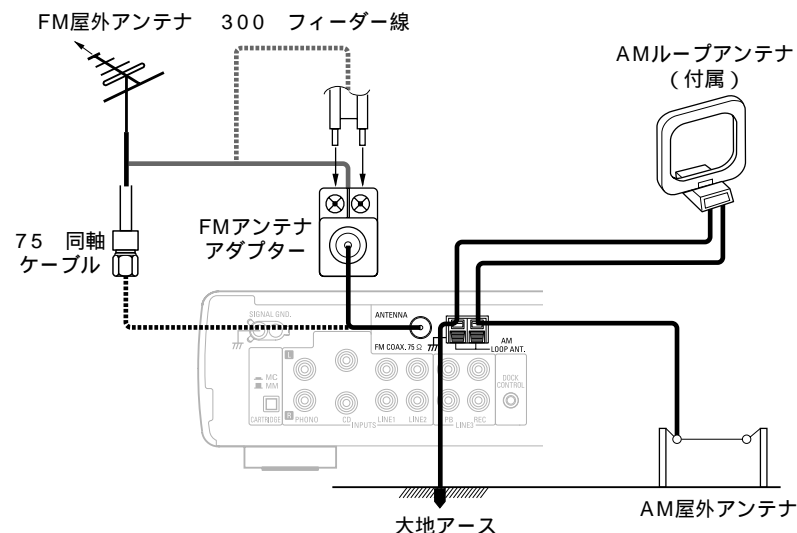
❑ アンテナの設置方法について

① 放送を受信する（☞ 14ページ）。
② 音を聞きながらアンテナを移動させ、最も雑音が少ない位置を探す。
③ アンテナを設置する。
- FMアンテナはアンテナの先端をテープなどで固定してください。

ご注意

- 本機のアース端子（ ⏚ ）は、安全アースではありません。
- AMループアンテナが金属部分に接近していると、AM放送を良好に受信することができません。

屋外アンテナを接続する

屋外アンテナをご使用になると、より良好な受信をおこなうことができます。

❑ 屋外アンテナを立てる場所について

- 最も良く受信できるところに立ててください。
- 自動車や電車の影響を受けないよう、道路や線路から離して立ててください。

ご注意

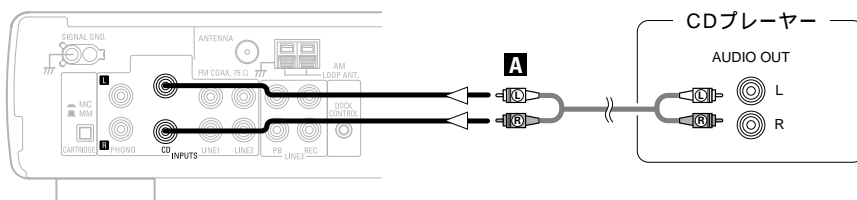
- 送電線の下には立てないでください。送電線がアンテナに触れると大変危険です。
- 落雷の恐れがありますので、あまり高いところには立てないでください。
- ガス管に接続して大地アースをとるのは大変危険です。絶対に接続しないでください。

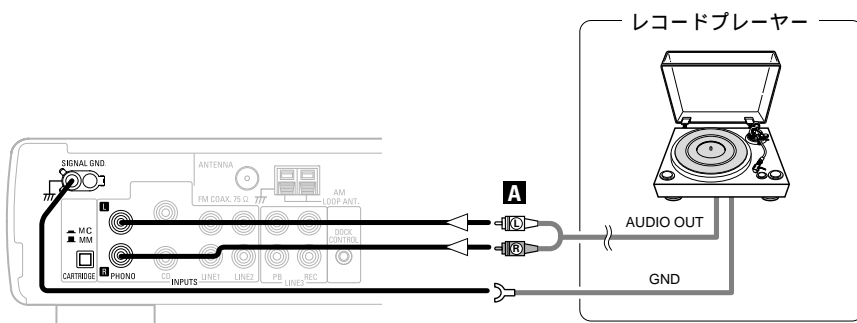
❑ FM屋外アンテナの接続について

- 他の機器からの影響を受けにくい75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。
- 付属のFMアンテナは、必ず外してください。

- FMアンテナアダプターは、本機のアンテナ端子に合ったもの（市販）をご使用ください。
- FMアンテナアダプターの取扱いについては、FMアンテナアダプターの取扱説明書をご覧ください。

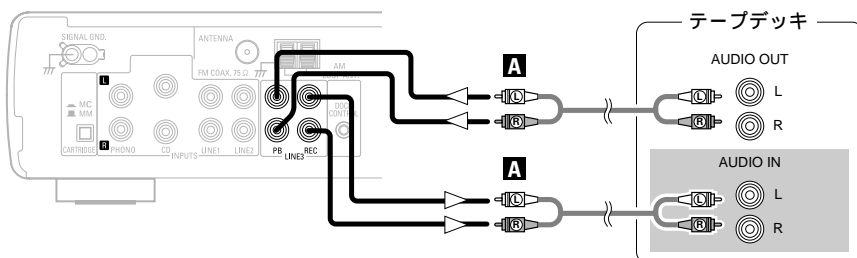
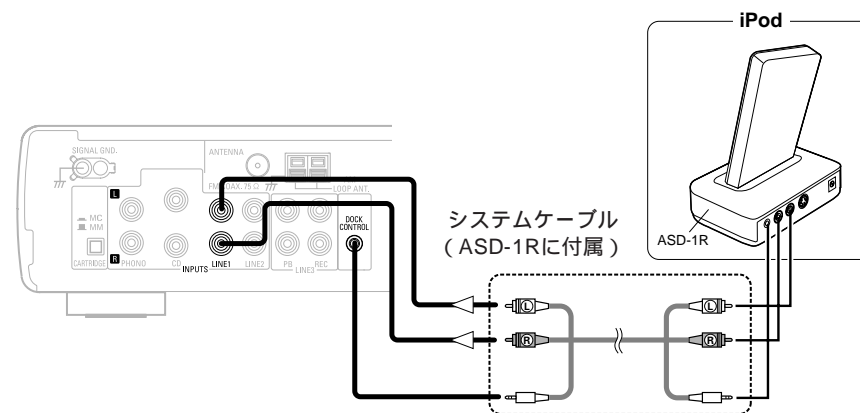
❑ AM屋外アンテナの接続について

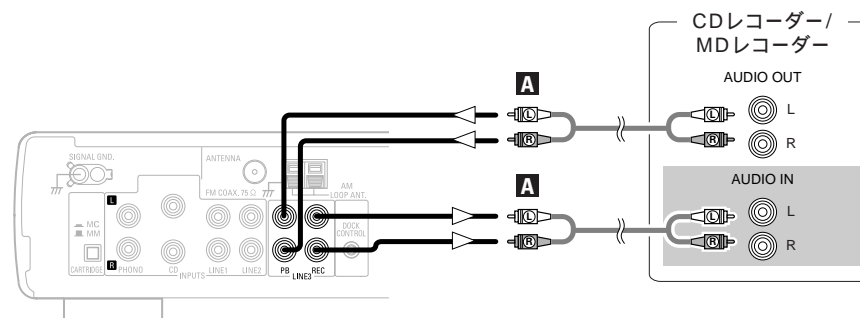
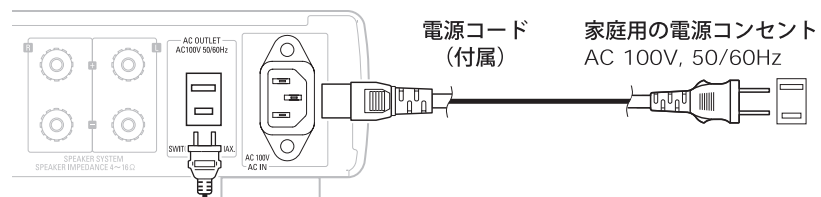
- 必ず大地アースを、アース端子（ ⏚ ）に接続してください。
- 付属のAMループアンテナも、必ず接続してください。

CDプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの接続

- アース線を接続することによって雑音が出るときは、アース線を接続しないでください。詳しくは、レコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 使用するカートリッジに合わせて、カートリッジ切り替えスイッチを“ MM ”または“ MC ”に切り替えてください。

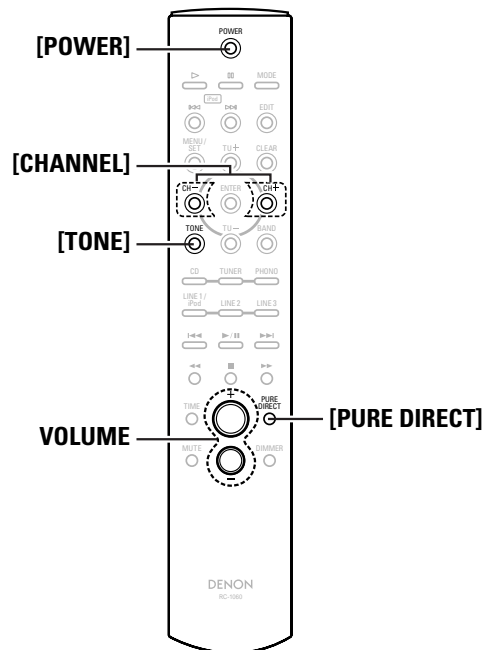
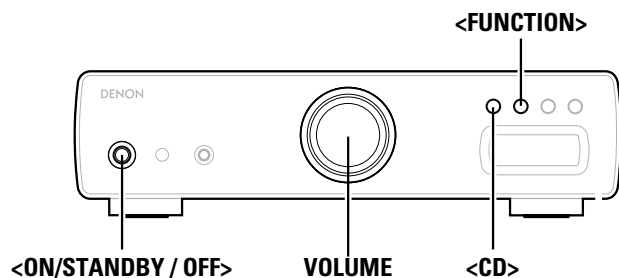
ご注意

本機のアース端子（ ）は、安全アースではありません。

テープデッキの接続

iPod®の接続

- 本機とiPodの接続には、iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をご使用ください。
- iPod用コントロールドック（ASD-1R）をご使用になる際には、通信モード切り替えスイッチの設定が必要になります。詳しくは、iPod用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。
- iPod用コントロールドック（ASD-1R）の接続には、iPod用コントロールドックに付属のシステムケーブルをご使用ください。
- iPod用コントロールドック（ASD-1R）を接続すると、ファンクション表示が“ LINE1 ”から“ iPod ”表示になります。

CDレコーダーまたはMDレコーダーの接続

電源コードの接続

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 本体のACアウトレットは、オーディオ機器以外の電源には使用しないでください。CDプレーヤーなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。
- ACインレット（AC IN）のアース端子（GND）は接続されておりません。

操作のしかた

【操作説明のボタン名について】
<　　>：本体のボタン
[　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

電源を入れる

＜ON/STANDBY / OFF＞ を押す。

※ 電源を入れると、前回使用していたときのファンクションになります（ラストファンクション機能）。

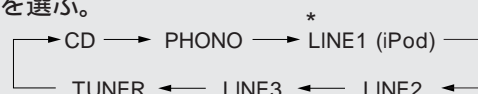
❑ 電源をスタンバイにするには
［POWER］を押す。

❑ スタンバイを解除するには
もう一度［POWER］を押す。

❑ 電源を切るには
＜ON/STANDBY / OFF＞ を押す。

● 電源表示について
電源オン ……赤色　**スタンバイ** ……オレンジ色

再生をおこなう

1 ＜FUNCTION＞ または ＜CD＞ でファンクションを選ぶ。

→ CD → PHONO → LINE1 (iPod)* → LINE2 → LINE3 → TUNER →

※ リモコンの入力切り替えボタンでも切り替えることができます。
*: iPod用コントロールドックを接続すると、表示が “ iPod ” 表示になります（コントロールドックにiPodが接続されていない場合は、“ NO iPod ” を表示します）。

2 機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

3 VOLUME で音量を調節する。

※ 音量は0 ～ −90dB ～ −∞の範囲で調節できます。−∞のときの表示は “ − − .− dB ” となります。

音質を調節する

1 ［TONE］で調節する項目を選ぶ。

→ BASS → TREBLE → BALANCE →

BASS：	低音を調節します。
TREBLE：	高音を調節します。
BALANCE：	左右の音量バランスを調節します。

2 BASS、TREBLEのレベルを表示中またはBALANCE表示中に［CHANNEL］で調節する。

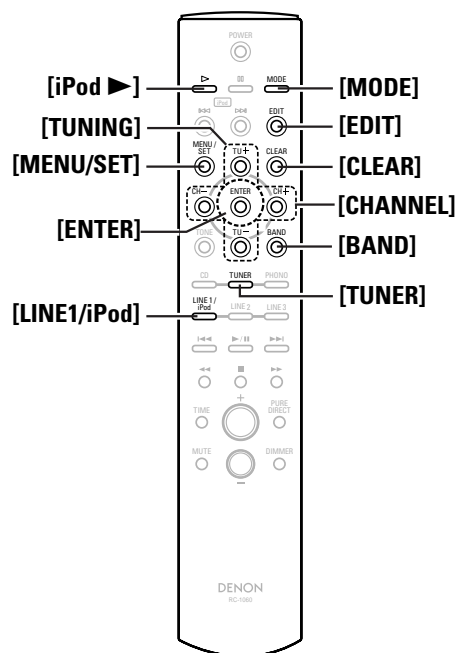
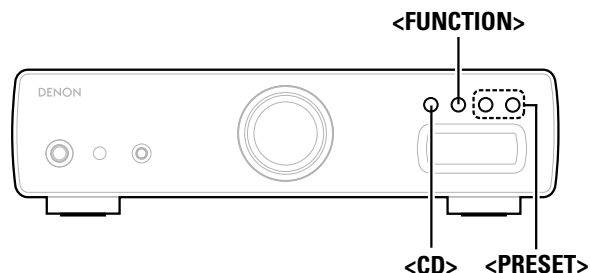
より高品質な再生をおこなう
（ピュアダイレクトモード）

［PURE DIRECT］を押す。

● ディスプレイの表示が消えます。

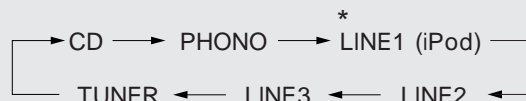
※ 音声信号が音質調整回路を通らないため、純度の高い音楽再生ができます。

❑ ピュアダイレクトモードを取り消すには
もう一度［PURE DIRECT］を押す。

● ピュアダイレクトモードのときの音質は “ フラット ”、バランスは “ センター ” となります。音質とバランスの調節はできません。

【操作説明のボタン名について】

＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

録音をおこなう

1 ＜FUNCTION＞ または ＜CD＞ で入力ファンクションを選ぶ。

※ リモコンの入力切り替えボタンでも切り替えることができます。

*: iPod用コントロールドックを接続すると、表示が " iPod " 表示になります（コントロールドックにiPodが接続されていない場合は、" NO iPod " を表示します)。

2 録音機器を録音状態にする。

※ 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3 再生機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

- LINE3の入力信号は、録音出力端子 (REC) に出力されせん。
- 音量や音質を調節しても、録音状態には影響がありません。

ラジオ放送局を受信する

1 ＜FUNCTION＞ または［TUNER］で " TUNER " を選ぶ。

- 受信周波数を表示します。

2 ［BAND］で、受信バンドを選ぶ。

→ FM AUTO → FM MONO → AM →

3 ［TUNING］で受信周波数を選ぶ。

- 受信すると、" TUNED " が点灯します。

❑ FM放送の受信状態の表示について

- 受信バンドのモードが " FM　AUTO " のときに、ステレオ放送を受信すると、" ST " 表示が点灯します。
- 電波が弱く、安定したステレオ受信ができないときは、受信バンドのモードを " FM MONO " にしてモノラル受信にしてください。" MONO " 表示が点灯します。

❑ オートチューニングについて

＜PRESET＞　または［TUNING］を押し続けると、自動的に放送局をサーチして受信します。
ただし、電波が弱い放送局は受信できません。

❑ オートチューニングを止めるには

＜PRESET＞ または［TUNING］を押す。

❑ マニュアルチューニングについて

［TUNING］を押すたびに、受信周波数が変化します。

- AM放送を受信しているときに近くでテレビなどをご使用になると、" ピー " という雑音が入る場合があります。
  このような場合は、本機をテレビなどからできるだけ離して設置してください。
- 本機ではラジオ放送以外に、次のテレビの音声（モノラル）を受信することができます。

1チャンネル：　95.75MHz
2チャンネル：101.75MHz
3チャンネル：107.75MHz

プリセットする

受信した放送局に名前を付けてプリセットする

- FM放送局とAM放送局を合わせて、最大40局までプリセットできます。
- プリセットした放送局に8桁までの名前を付けることができます。

1 **放送局を受信する。**
- 受信周波数を表示します。

2 **［EDIT］を押す。**
- 名前入力モードになります。

3 **［CHANNEL］で文字を選ぶ。**

※ 最大8文字まで入力できます。
入力できる文字は、以下の通りです。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
^ ' ( ) ＊ + , – . / = （スペース）

※ カーソルを移動するときは、［TUNING］を押してください。
※ 文字を削除するときは、［CLEAR］を押してください。

4 **［ENTER］を押す。**

5 **<PRESET> または［CHANNEL］でプリセット番号を選び、［ENTER］を押す。**
- 受信周波数と受信モードをプリセットします。

❑ 放送局名を変更するには
① 変更したいプリセット名を呼び出し、［EDIT］を押す。
②「受信した放送局に名前を付けてプリセットする」の操作 *3, 4* をおこなう。

❑ プリセットのみをおこなうには
① 放送局を受信中に［ENTER］を押す。
②「受信した放送局に名前を付けてプリセットする」の操作 *5* をおこなう。

ご注意

すでにプリセットしてある番号にプリセットすると、古いプリセット内容は消去され、新しい内容がプリセットされます。

FM放送局を自動的にプリセットする（オートプリセット）

1 **<FUNCTION> または［TUNER］で“ TUNER ”を選ぶ。**
- 受信周波数を表示します。

2 **［MENU/SET］を長押しする。**
- “ A. PRESET ”を表示します。

3 **［MENU/SET］を押す。**
- 放送局を自動的にプリセットします。

- アンテナの電波が弱い放送局は、オートプリセットができません。このような場合は、マニュアルチューニングで受信し、「受信した放送局に名前を付けてプリセットする」の操作をおこなってください。
- オートプリセットをはじめると、途中で止めることができません（終了するまで30秒程かかります）。

プリセットした放送局を聞く

<PRESET> または［CHANNEL］でプリセット番号を選ぶ。

iPod®を再生する

iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）を使用することにより、iPodの音楽を再生することができます。
iPod用コントロールドックについては、お買い上げの販売店または当社のお客様相談窓口にお問い合わせください。

Made for iPod　iPodは米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

※ iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

1 **本機とiPodをiPod用コントロールドック（ASD-1R）を使って接続する（☞ 11ページ）。**

2 **<FUNCTION> または［LINE1/iPod］で“ LINE1 ”を選ぶ。**
- “ LINE1 ”から“ iPod ”に表示が変わります。

3 **［MODE］を2秒以上押して、再生モードを選ぶ。**

Browse ←→ Remote

Browse（ブラウズ）モード：
本機のディスプレイに表示します。

Remote（リモート）モード：
iPodのディスプレイに表示します。

4 **［iPod ►］を押す。**
※ もう一度押すと一時停止します。

- ファンクションが“ iPod ”のときに操作できるリモコンのボタンについては、8ページをご覧ください。

ご注意

- iPodを本機と接続して使用しているときに、iPodのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 本機は、日本語表示に対応しておりません。

その他について

故障かな？と思ったら

❏各接続は正しいですか
❏取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もしお買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても電源表示が点灯せず、音が出ない。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●電源プラグの差し込みを確認してください。	12
電源表示は点灯するが音が出ない。	●スピーカーケーブル接続が不完全である。 ●ファンクション（入力）が不適当である。 ●音量調節つまみが絞ってある。	●しっかり接続してください。 ●正しいファンクション（入力）に切り替えてください。 ●適当な位置まで回してください。	9 13 13
片側だけ音が出ない。	●スピーカーケーブル接続が不完全である。 ●入力ケーブルの接続が不完全である。 ●左右のバランスがずれている。	●しっかり接続してください。 ●しっかり接続してください。 ●左右のバランスを調節してください。	9 11 13
ステレオのときに、各楽器の位置が入れ替わっている。	●スピーカーケーブルまたは入力ケーブルの接続が逆になっている。	●接続を確かめてください。	9
FM放送に“ザー”という雑音が入る。	●アンテナケーブルが正しく接続されていない。 ●マイコンを搭載した電子機器などから雑音が入っている。または、受信している放送局の電波が弱い。	●アンテナケーブルを正しく接続してください。 ●機器の配置や接続ケーブル、アンテナなどの位置や向きを変えてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	10 10 10

現　象	原　因	処　置	関連ページ
AM放送に“シー”や“ザー”という雑音が入る。	●テレビなどから雑音が入っている。または、放送局の干渉音が聞こえる。	●テレビを消してください。 ●AMループアンテナの位置や向きを変えてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	ー 10 10
AM放送に“ブーン”という雑音が入る。	●電源コードを伝わってくる電波によって妨害を受けている。	●電源プラグの方向を逆に差し込んでみてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	ー 10
レコード再生のときに、音量を大きくしていくと、“ワーン”という音が出る。	●プレーヤーとスピーカーの距離が近すぎる。 ●床が柔らかく、振動しやすい。	●できるだけ離してご使用ください。 ●床を伝わってくるスピーカーの振動をクッションで吸収するようにしてご使用ください。	11 ー
リモコンを操作しても正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。 ●リモコンの距離が離れ過ぎている。 ●本体とリモコンの間に障害物がある。 ●リモコンの操作方向の角度が正面から30°を超えている。 ●乾電池の⊕、⊖が正しく入っていない。	●新しい乾電池と交換してください。 ●近づいて操作してください。 ●障害物を取り除いてください。 ●本体の正面方向からリモコンを操作してください。 ●乾電池を正しく入れてください。	6 6 6 6 6

保証とサービスについて

1 この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

主な仕様

❑ レシーバー部

定格出力：	両チャンネル駆動（CD→SP OUT）	
	75W＋75W（負荷8Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）	
	150W＋150W（負荷4Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）	
全高調波ひずみ率：	0.05%（定格出力ー3dB時、負荷8Ω、1kHz）	
出力端子：	スピーカー：負荷4〜16Ω、ヘッドホン/ステレオヘッドホン適合	
イコライザーアンプ出力（REC OUT端子）：	定格出力：150mV	
入力感度/入力インピーダンス：	PHONO（MM）：	2.5mV/47kΩ
	PHONO（MC）：	0.2mV/100Ω
	CD、LINE1、LINE2、LINE3：	130mV/47kΩ
RIAA偏差：	PHONO：	20Hz〜20kHz±0.5dB（MM）
受信周波数帯域：	FM：76MHz〜108MHz	AM：522kHz〜1629kHz
受信感度：	FM：1.5μV/75Ω	AM：20μV
FMステレオ分離度：	35dB（1kHz）	
FM SN比：	モノラル：74dB	ステレオ：70dB
FM高調波ひずみ率：	モノラル：0.3%	ステレオ：0.4%

❑ 特性

SN比:	PHONO（MM）： 84dB（入力端子短絡、入力信号5mV時）
	PHONO（MC）： 70dB（入力端子短絡、入力信号0.5mV時）
（Aネットワーク）：	CD、LINE1、LINE2、LINE3：95dB（入力端子短絡時）
トーンコントロール：	BASS（低域）： 100Hz±8dB
	TREBLE（高域）： 10kHz±8dB
周波数特性：	入力CD、ピュアダイレクトON：5Hz〜40kHz（＋0.5dB、ー3dB）

❑ 総合

電源コンセント：	SWITCHED（連動）1個　容量100W
電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	165W（電気用品安全法による）
	スタンバイ時：約0.5W
最大外形寸法：	300（幅）×80（高さ）×341（奥行き）mm（突起物を含む）
質量：	5.5kg

❑ リモコン（RC-1060）

リモコン方式：	赤外線パルス式
電源：	単4形乾電池2本使用
最大外形寸法：	44（幅）×233（高さ）×22（奥行き）mm
質量：	165g（乾電池を含む）

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒 210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

Printed in Japan　00D 511 4572 005A